平成 28 年 5 月 2 日(月)
練馬区立開進第四小学校
校 長 佐 々 木 秀 之

学 ぶ 構 え　－その２－

校　長　佐 々 木　秀 之

桜の花はすっかり葉桜に変わり、太陽の光を透かして見る若葉はなんともいえない青々とした美しさを見せています。81 人の一年生もすっかり学校に慣れ、教室からは楽しそうな笑い声や歌声が聞こえてくるようになりました。

＊

一昨年 5 月の学校だより「学ぶ構え」より……そもそも日本の教育は身体から入る教育であり、正座をして姿勢を崩さずに「学ぶ構え」をつくり、姿勢を崩したいという気持ちと戦うことで自分の身を律することを同時に行い、自然に「学ぶ構え」を訓練していたというのです。（中略）「学ぶ構え」がない人に何かを教えようとしても、少しも吸収してもらえません……と書きました。

もう一つ、学ぶ構えとして大切なことは、人の話に耳を傾け、我慢をしてでも聴くことだと思います。しっかりと聴くということが、学ぶということの基本であり、聴くという学ぶ構えができている人は、他の人に対しての意識をきちんともっているということになります。

顔はそむけているけれど、友達と話をしているけれど、耳だけは話している人に向けているから大丈夫。じっとノートや教科書を見つめたまま、でも聞いているから問題ない。残念ながらそれは**聞いて**いるとは言いませんし、全く**聴いて**いません。それらのすべては聞いている「つもり」で終わってしまっています。「積極的に受動的な構え」を、勉強・読書を通じてつくり上げる。これが学ぶことの基本だと思います。

また、学ぶという活動は「素直さ」を育てるものでもあると思います。人の言葉を聴いている間は、自己中心的な態度をやめていると言い換えることができます。「自分が、自分が」という自己中心的な態度はやめ、100%同意するのではないまでも、話に耳を傾け虚心坦懐に、つまり心をすっきりさせて、まずは相手の言っていることを受け入れてみようという、素直さを学ぶ活動だともいえます。

＊

学校で最も重要な教育活動である授業は、「聞く」ことと「話す」ことがセットで進められていきます。「聞く」力と「話す」力が、授業での学習を支える基になる力ということになります。もともと日本人は、とりわけ「聞く」・「話す」ことに優れていたといいます。

五感を働かせて聴く。そうすれば、記憶は強く、考える力は深くなります。連休を挟みますが、**聴く力**を育て、学ぶ構えを身に付けさせる一ヶ月にしたいと考えています。